

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 24 年度

事業所番号	2770103782		
法人名	社会福祉法人 関西福祉会		
事業所名	陵東館秀光苑		
所在地	大阪府堺市北区長曾根町1199-6		
自己評価作成日	平成 25年 1月 17日	評価結果市町村受理日	平成 25年 4月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2770103782-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2770103782-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 2月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的には自立されている方が多いため、現在の状態をなるべく維持できるように、1人1人に合わせて「出来る事が、出来る」支援を心掛けています。気候に合わせて、外食や散歩など外へ出掛ける機会を作ったり、レクリエーションを行ったりと、活動面を多く取り入れる事も目指しています。日常では、利用者同士で声を掛け合い、洗い物をしたり、洗濯物をたたんだり、体調を気に掛けたりと、協力しあう場面も多くみられます。利用者職員だけの関係だけでなく、家族へもその都度近況を伝えたり、行事にお誘いするなど、家族との繋がりが大切に使っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元で生まれ育った理事長が「誰もが、地域で暮らすことを大切にしたい」との想いを具現化し、障がい者支援施設から特別養護老人ホーム、保育園まで幅広い福祉サービスを展開してきました。グループホームも開設後10年が経過し、地域に開かれたホームとして機能しています。面会・談話室、多目的ホールなど、ハード面の豊かさを活かしながら日々の暮らしの場を提供しています。「あなたの笑顔が私たちの誇り」と職員自らが標語を作り、利用者目線で熱い思いを持ち、理念の実現に取り組んでいます。離職者が少なく、職員、利用者同士の関係が構築されています。利用者が来客者へお茶の接待ができるように環境を整え、見守る場面や利用者同士笑顔で会話する様子から、日々の暮らしぶりが窺えます。ホームが馴染みの場、楽しく暮らせる場となるよう、生活歴や利用者の思いを引き出し、情報収集しながら介護計画を立て、チームで取り組んでいます。利用者主体となるよう真摯に取り組む姿勢は、自己評価で課題として掲げている「外出」「馴染みの関係との継続」などへも今後前向きに取り組む、さらなる質の向上に繋がることが期待されるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で共に支えあい、地域と共に歩む」という理念を掲げ、職員が目に入る場所へ提示し、常に意識するよう心掛けている。又、スタッフ皆で話し合い「標語」を決め、状況に合わせたケアの実現を意識し取り組んでいる。	「地域の中で共に支え合い、地域とともに歩む」を理念に掲げ、「ゆったりした自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でできる喜びを感じる暮らし」「自分らしさや誇りをもった暮らし」を目指しています。また、職員で話し合い、「あなたの笑顔が私たちの誇り」と標語を決めて、これまで利用者が培ってきた生活を大切にしながら、利用者の笑顔を引き出すよう、理念にそったケアを実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域推進運営会議を通じて、自治会などのイベントに定期的に参加し、交流している。	法人は、地域の福祉の拠点として根差しており、ホームもボランティアの訪問、もちつき大会、祭りなど、地域行事に参加し、交流を深めてきました。以前は、地域の溝掃除にも利用者と共に参加していました。また、小学校や保育園からの訪問もあり、住み慣れた地域との繋がりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	以前、介護者教室にて地域の方への認知症についての芝居などを行った事などはあるが、近年は無く、今後検討が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域推進会議にて状況報告は必ず行い、困難事例などがあれば意見を求め、反映するようにしている。</p>	<p>運営推進会議は、規程・規約を作成し、2カ月に1回開催されています。利用者、家族、地域住民の代表者、民生委員、地域包括支援センター、知見者、事業所職員で構成しています。会議では、各ユニットの現状報告やホームでの行事、日常生活の様子をスライドで報告しています。また、会議を通して地域の行事の情報を得て参加する機会ができ、地域とのつながりが広がっています。運営推進会議で出された意見は、職員会議で全職員に周知されています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>北区基幹型包括センター所長を地域推進運営会議に参加してもらい、事業所の実情などを伝えている。</p>	<p>毎月、区のグループホーム連絡協議会に出席し、市や他の事業者と情報交換や連携を図りながら、サービスの質の向上に向けて交流を図っています。また、運営推進会議では毎回、地域包括支援センターの出席を仰ぎ、事業所の実情や取り組みを積極的に伝え、協力関係を築いています。事故が発生した場合には、速やかに報告する体制が整備されています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人内に委員会を設けており、日々のケアを行う中で何が身体拘束にあたるか等、具体的な項目を挙げ、共通の認識としている。その際、外部研修などの報告も行っている。委員会に参加できていないスタッフへも口頭や記録で伝え合っている。玄関は夜間を除き施錠は行っておらず、開放している。</p>	<p>身体拘束について、利用者へのスピーチロックや言葉遣いなど事例を用いた具体的な研修を行い、職員に理解を深めています。日々のケアで気付いたことは、職員同士が注意を促すようにしています。日中、グループホーム入口は開錠していますが、現在、入居間もない利用者への対応のため、一時施錠しています。各フロアのエレベーターは自由に行き来できます。車いすや歩行器使用の利用者には、職員が付き添っています。転倒の問題から、ベッド柵などリスクと拘束については、家族の意識と異なる場合もありますが、利用者の立場から、ベッド柵での対応をするのではなく、センサーマットなどで対応する等、家族にも理解を求めています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内に高齢者虐待防止委員会を設置しており、実際の事例を挙げ、背景や今後の対応を話し合っている。又、報道などの記事を回覧し、改めて自施設の事を振り返り、言葉の掛け方や、振る舞い方など、再確認し合っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や文献、法人からの情報等で学んでいる。又、機会があれば研修に参加し、職員間で周知できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、時間をかけて丁寧に説明を行い、その後も面会時に不安な点はないかなど話をする機会が作れるように心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と個別で話す時間を作ったり、家族の面会時にスタッフが伝えるだけでなく、家族の意見や要望を気兼ねなく話してもらえるよう心掛けている。又、	3カ月に1回の「秀光苑たより」で、行事の様子や誕生会、食事会など、日常生活の様子を紹介しています。また、運営推進会議への家族の参加や、年4回の家族会により、家族が意見や要望を出すことができる機会を設けています。家族と共に利用者を支援する姿勢で、家族との関係構築に努めています。	事業所独自で年に1回程度、家族アンケートを実施されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会で意見や提案を聞く機会を作っている。	会議では事前に資料等を配布することで、職員が意見や要望を出しやすいようにしています。新規利用者が入居する場合は、事前に利用者の情報を提供しています。職員の提案や意見については話し合いを行い、ケアに繋がるように取り組んでいます。数年間、職員の退職はほとんどない状況です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議の場において、勤務状態、給与水準の話が議題として挙がる事はある。職員側からの意見ややりがいについての話し合いがもたれにくく、今後の課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での勉強会、認知症介護実践者研修をはじめ、常勤、非常勤を含めて研修を受ける機会を設ける事で、意欲向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者として、北区グループホーム協会での会合や勉強会などはあるが、相互訪問などは今後、必要だと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から訴えや要望を傾聴し、受け止め、援助内容に取り入れるようにしている。直接的な訴えだけでなく、日々の関わりの中で気持ちなどを汲み取る事も意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気遣いせずに、困っている事や不安に思っている事、要望等を話しやすい雰囲気作りに努める。家族の訴えに対し、すぐに対応するよう随時職員で話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「今」必要な支援は何かを法人全体で話し合い、本人・家族の意向を実現出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が「手伝いましょうか」など話され、職員と一緒にしてくれるなど、利用者と職員がお互いに支えあう雰囲気があり、利用者の気持ちに対し、感謝の言葉を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者と家族で過ごす時間や場所を設け、一緒にゆったりと過ごせるように努めている。又、行事の際には家族を招いて、一緒に楽しんでもらえるようにしている。居間には家族と一緒に撮った写真を飾り、いつでも家族の存在を感じれるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人へ会いに行ったりする事は行えていないが、面会に来られた際は職員が本人の近況を伝えたり、事業所について説明したりするなど、職員も間に入り、気軽に足を運んでもらえるように取り組んでいる。	入居前からの友人の訪問や手紙を出すなど、馴染みの関係継続に向けた支援をしています。利用者の要望に応じて、携帯電話の使用についても家族と相談する等、利用者がホームに入ることによって関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後の食器を洗う際、1人が洗い、1人が濯いだり、洗濯物をたたむ際は3～4名の方が集まってたたんでくれ、衣服に書かれている名前が分らない時は教えあったりと、利用者同士で協力されている場面が多くみられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、クリーニングを営む家族に依頼も兼ねて接する機会があったり、近所に住んでいる退去された利用者家族が訪問し、他の利用者や職員と談話をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、本人や家族から、これまでの生活歴などを聞き、なるべくこれまで通りの生活に近い形で過せるように取り組んでいる。又、日々の生活の中での気付き等を記録、伝達し合い、1人1人に合った支援を目指している。	職員は日々のケアの中で、できるだけ利用者の思いを受けとめ、利用者本位のケアに繋がるように努めています。認知症に随伴する利用者の様々な言動・行動の要因を把握するために、生活歴や習慣を家族や関係機関から丁寧に聞き取り、対応方法をチームで検討するなど、その人の思いや意向に寄り添うように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や、思い出話など本人・家族さんの会話の中から汲み取り、又、以前に他のサービスを利用されている時は、その事業所の協力をへて情報を提供してもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子をケース記録に記入し、変化や気付いた事を職員で共有する。状態の変化に対応するため、その都度話し合い、援助方法を検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	出来る限り、担当スタッフ全員の意見を取り入れながら、ケアプランの作成や更新に臨んでいる。又、家族にもケアプラン説明時だけでなく、随時近況や変化を伝え、課題に対する対応を話し合いプランに反映できるように取り組む	介護計画は、概ね6ヵ月毎に見直しをしています。毎月、職員で話し合いながら、介護計画の実践を評価しています。評価の結果、新たな課題があれば介護計画に反映しています。介護計画作成に際しては、職員側の視点にならないよう、利用者本位のケアに繋がるようにと利用者、家族とともに話し合いながら取り組んでいます。利用者の状況に応じて、情報収集のシートを工夫し、利用者把握に努めています。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	ケース記録や、職員会議資料にて情報を共有し、支援に対する、結果を振り返ったり、新たな課題を検討し、ケアプランに反映させている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	医療連帯体制を活かし、内科や整形外科、歯科など随時受診可能である。又、かかりつけ医や希望される病院など、家族の協力を得ながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、校区の催しものなどに参加している。又、最近は機会が少なくなっているが、ボランティアの方を受け入れ、利用者と談話をしたり、一緒に編み物などを行っていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な際には、本人・家族の意向を聞き、かかりつけ医または希望される病院を受診している。かかりつけ医をもたない方も法人診療所で受診されている。受診の付き添いも、本人・家族に合わせ、職員と受診したり、家族と職員と一緒に付き添ったりしている。	受診する医療機関は、本人、家族の希望を優先しています。ホームの提携医療機関以外は、家族の対応を基本としています。家族が困難な場合は、職員が通院に同行することもあります。内科、整形、精神内科は往診医との連携があり、日常的な健康管理や緊急時の対応が整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	既往歴や現在の疾患を把握し、日々の状態や変化を観察している。些細な変化や気づきも記録したり、看護師へ伝え、必要に応じてながら医療機関を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は、看護・介護サマリーを提出し、利用者の情報を医療機関に伝え、出来る限り事業所の生活が継続できるように努めている。又、入院中も面会に行き、状態の把握や、離れていても、馴染みの顔がいつもいるという安心感を持ってもらえるようにしている。病院関係者とも情報交換を行いながら、退院後の対応を検討し、早期退院受け入れを目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人・家族の意向を汲み取り、事業所が対応しうる支援方法を話し合い、出来る限りここでの生活が続けられるよう取り組んでいる。利用者・家族の不安がないよう、その都度話しあう機会を設け、対応や方針を職員で共有し取り組んでいる。	入居時に、医療の必要性や重度化した場合には、医療機関や併設の特養を紹介することを伝えています。入居後も必要が生じた段階で家族に説明を行い、相談をしながら対応しています。併設に特養があることで、家族の安心に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急、急変時の対応、誤嚥、転倒時の対応などフローチャートで表記し、目の届く位置に貼っている。又、勉強会を通して心肺蘇生やAEDの使用方法など学び、実践力を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、3カ月に1回自主消防避難訓練を、半年に1回消防署員立会の避難訓練を実施している。マニュアルを作らず、その場のスタッフ同士で臨機応変に訓練を行う事もあり、より実践に近い形での訓練も実施している。又、月1回設備点検を行い、避難経路の確認や設備不良等ないか確認している。	グループホームは、2階から6階までが居住空間となっており、スプリンクラー、消火栓、排煙設備、防火扉、ベランダへの避難経路誘導板等の設備が整っていることで、利用者、家族の安心にも繋がっています。併設の特養とともに、2カ月に1回の防災訓練を実施し、年2回は消防署の指導を受けています。災害訓練では、布団を利用したの階段搬送、消火器の使用訓練を利用者も参加して実施しています。水や乾パンの備蓄も各階にあります。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の掛け方や声の大きさ、表情などを意識している。長年関わっている方に対しても、馴れ合いになっしまい、呼び方や言葉遣いが乱れぬ様、職員同士で指摘しあえるようにする。ケース会議なども、他の利用者に個人の事を知られないように、開催場所や声の大きさ、実名を伏せて行うなどしている。	プライバシーや個人情報保護について、学習会を実施しています。特に学習会では具体的な事例をあげ、日常ケアに繋がるような工夫をしています。利用者を「ちゃん」付けで呼ぶことが良いかどうか、写真の掲載はどうかなど、利用者の思いを大切にしながら一人ひとりの現状に合わせた対応を心がけ、家族や第三者にはどのように映るのかなども話し合っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは利用者の言葉を聴き、共感するという姿勢で接し、自己表現が困難な方も、これまでの関わりや、表情、仕草から汲み取ろうとする気持ちで接する。買いたい物がある際、一緒に買いに行ったり、職員が買ってきたりと、なるべくすぐに要望に応えられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっているが、朝起きられない方や、気分によってその時間に食べたくないという方は、時間をずらして食べてもらっている。食事時間以外は1日の流れを決めておらず、天気の良い日は散歩に出掛けたり、レクリエーションを行ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方とも相談しながら、これまで着ていた好みの色やデザインに合わせた服を用意するように努めている。外出着と普段着を使い分け、職員も一緒に選ぶなどして、身だしなみも楽しんでもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを手伝ってもらったり、夕食の食材を一緒に取りに行き、食材を見ながら「魚がようけあるけど、今日は何のご馳走？」などの会話も交えながら楽しみをもってもらっている。食後の片付けも利用者同士で協力しながら行っている。	朝食・昼食は併設施設の厨房から配達されます。利用者は、盛り付けや片付けを職員と一緒にしています。利用者の重度化に伴い、調理も困難になってきましたが、夕食は届いた食材を、一緒に調理し、片付けなど、一人ひとりができる範囲で役割を担っています。地域の畑を借りて、トマトやキュウリ、サツマイモなどを収穫し、メニューに加えています。テーブルには箸立てやお茶を置いてあり、来客者には利用者がお茶を勧めるなど、日常の生活が継続できるような環境を整えています。食事量の記録とともに、水分量も必要に応じてチェックしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ずつの食事摂取量表を作成し、毎食確認している。食事の形態も個人に合わせ、刻みやミキサーで提供している。摂取量の少ない方には栄養捕食を用意し、アレルギーのある食品や、好み、体調に合わせ、別メニューを用意する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じながら、口腔ケアの声掛けや一部介助を行っている。個人に合わせたケア用具を用意し、定期的に確認を行っている。毎週、水曜日にある歯科受診にて口腔ケアを行っている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄失敗が続く時などは、排泄チェック表を作成し、排泄の間隔やパターンを把握し、トイレの声掛けや誘導にて、なるべくトイレで行えるようにしている。夜間のみパットの使用、ポータブルトイレの設置など、常に対応を話し合っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、時間誘導を行い、ケース記録に残しています。利用者の状況を把握しながら、おむつの種類の変更やパットの工夫により、使用量が少なくなった利用者もいます。夜間は安眠を重視し、室内でポータブルを使用する利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が出にくい方はなるべく薬ではなくオリゴ糖を飲んでもらっている。その他に、適度な体操を行い、又、排便チェック表をつけ、排便の状況を確認し、便秘予防に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自身で入浴は2日に1回と決めている方には、入りたい時間を尋ね、希望の時間にスムーズに入る事が出来るように調整している。一部介助や全て介助が必要な方でも、体調や気分に合わせて声を掛け、入浴して良かったという気持ちを持ってもらえるようにしている。	利用者の希望があれば、毎日でも入浴できます。以前は希望により夜間の対応もしていました。また、入浴剤やゆず風呂、菖蒲湯などの季節風呂など、入浴が楽しみになるような取り組みをしています。現在週2～3回の入浴となっていますが、回数が少ない場合は衛生面を考えながら清拭をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅での暮らしのリズムも考慮しながら、1人1人の状態に合わせた生活を送ってもらえるようにしている。午後、横になる時間を設けたり、夜間は室温や湿度を調整し、又、長年使い馴染んでいる枕を持ってきてもらったりして、安眠が図れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人ずつの服薬票を、すぐに確認できる所に置いている。服薬忘れが無いようにチェック表を作成している。又、食後に比べ、食前薬は忘れがちになってしまう事もある為、職員の目の届く所に1週間分（朝・昼・夕）と分けて設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の際、手際良く野菜をカットしてくれたり、洗濯物をたたむ際は3～4名の方が手伝ってくれたり、暮らしの中で自然と役割を持って協力し合っている。又、近所の薬局へ散歩を兼ねて向かい、好みの菓子類や飴などを購入している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気候に合わせながら、数人づつで近所へ散歩や買い物に出掛けたり、お弁当を用意してユニット全員で公園へ花見に出掛けたり、好む方が多いお寿司を食べに回転寿司へ行ったりしている。お盆やお正月などは、家族の方と相談しながら外出や外泊を行っている。	地域の祭りや花見、初詣、外食など行事への取り組みを行っています。以前は、近隣の公園への散歩や食材の購入など、日常的に外出していましたが、利用者の重度化に伴い外出の機会が減っています。職員は、できるだけホーム内だけでなく、ボランティアや家族の協力を得ながら、利用者の楽しみに繋がるように外出の機会を増やしたいと考えています。	職員は、外出の機会が少なくなっていることを認識しています。ホームの構造上、玄関までの動線が複雑で、地域の人たちとふれあうことが難しい環境ですが、利用者の訴えがなくとも両ユニットで協力しながら、庭先に出て外気に触れ、地域との繋がりができるよう、日常的な取り組みが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方は1人のみだが、法人内の紅葉祭や納涼祭の時や、近所の喫茶店へ行った際には、お金を持ってもらい、好きなものを購入して支払いも行ってもらっている。必要に応じて支払いの際は職員が見守る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	法人内に設置している公衆電話を自由に使用してもらっている。又、公衆電話の設置場所まで行く事や、自力で掛ける事が困難な方でも職員が電話を掛けて、いつでもご家族と話す事が出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室の明るさや温度、湿度など利用者の意見を取り入れながら調節している。個人に合わせ、居室に馴染みの家具を設置したり、家族との写真や、お孫さんが書いた手紙、本人が誇りに思っている賞状などを飾っている。	A・Bユニットとも居室以外の異なる階に、居間・食堂・台所や談話室、喫茶コーナーなど、自由に過ごせる空間があります。各階には、エレベーターや階段で自由に行き来できます。ホーム内の数カ所に椅子やソファが置いてあり、利用者同士ゆっくり過ごすことのできる場を提供しています。利用者が主に過ごす台所やリビングは、広く明るく、食器棚や台所用品を自然に置き、生活感あふれる家庭的で過ごしやすい空間となっています。対面式のキッチンにはポットや炊飯ジャーなどがあり、食事の時間には、調理の様子や音、においなどを感じることができます。また、随所に生花を活け、鉢植えを置く等、季節を感じるができます。食後、利用者と職員と一緒に歌を歌い、談話し、笑い声が響き楽しく過ごしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際は1人1人席が決まっているが、それ以外の時間は思い思いの席へ座ってもらい、利用者同士で談話などされている。又、ソファや1人掛けのソファを設置し、誰でも自由に座って過ごしてもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際や、入居後も利用者の好む物や、家族へ話しを聞きながら、馴染みの家具や写真などを設置している。逆に、利用者が困惑されてしまう物などは、その都度家族と相談し、職員で預かったり、家族へ持って帰ってもらったりしている。	居室には、電動ベッド、木製の机、洗面台が設置しています。家具や仏壇、テレビ、鉢植え、思い出の品など、使い慣れたものを自由に持ち込むことができます。畳の希望があれば、フローリングに敷くことも可能です。居室には、レクリエーションで作成した作品や写真を飾り、ぬいぐるみを持参している利用者もいます。利用者が安心して生活できるよう、家族と相談しながら部屋の設えを工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平面でなく立体構造になっている為、自力で移動できるが場所の把握が困難な利用者は、居室に「食堂は6階」等の案内図を居室へ貼っている。又、居室が分かりづらい方は、表札を工夫し、分かりやすいようにしている。		